

# 令和5年度 経営の概要

## 1 地域と児童

今年度創立149年目を迎える伝統ある学校である。

大仙市の東部に位置し、地域の中央を県道角館六郷線が通っている。学区は、太田町の中心部より南西に位置する。太田東小学校区とは田沢疎水を境に接しており、太田北小学校区は本学区の北側に位置する。

保護者や地域の方々には、教育への関心が高く「わが地域の学校」として本校の教育活動に大変協力的である。子どもは、全体的に素朴で素直である。また、決められたことや指示されたことについては、最後までやり遂げようとする子どもたちである。一方で、人間関係が固定的であり、多様な考え方に対応する力が不足がちで、進んで自分の考えを表現したり、他と関わったりすることには消極的である。

そこで、日々の学習や教育活動を通して、子どもたちに自信をもたせ、よさをさらに伸ばしながら、笑顔あふれる学校づくりを推進したいと考える。

## 2 学校教育目標

**夢に向かって 本気で チャレンジ！  
笑顔の花さく南っ子**

子どもにとって、教職員にとって、保護者にとって、地域にとって「魅力ある学校」を目指す。それは、子どもが自らの成長を実感できるような教育の場であり、教師が子どもたちの成長に手応えを感じることでできるような実践を行う場である。また、保護者が子どもの望ましい変容を見ることができ、地域と学校とが双方向に結び付く場である。

そこで、目指す学校像を「分かる、できる授業が保障されている学校」「豊かな人間性を育む学校」「やり抜くたくましさを育む学校」とし、強みを生かしながらさらなる学校の活性化、課題改善につなげていきたい。

そのために、日々の学習や教育活動を通して、進んで自分の考えを表現したり、他と関わったりするよさを体得させたりすることで、本気で物事に取り組む心地よさを味わわせ、笑顔あふれる学校づくりを推進したい。そうすることによって、保護者・地域からも一層信頼され、魅力ある学校になっていくと考える。

また、大仙市モデル地域としての「コミュニティ・スクール(CS)」の2年目を迎えるにあたり、CSをさらに機能させることによって学校の課題改善につなげ、「学校に地域の力を・学校が地域の力に」を合言葉に、学校と地域がWin-Winの関係となる実践を積み重ねていきたいと考えている。

## 3 目指す児童像・学校像・教師像

### (1) こんな子どもに

- <まなび> できるまで学び続ける子ども
- <こころ> 仲間に優しい子ども
- <からだ> あきらめない子ども

### (2) こんな学校に

- <まなび> 分かる、できる授業が保障されている学校
- <こころ> 豊かな人間性を育む学校
- <からだ> やり抜くたくましさを育む学校

～ 信頼される太田南小学校 地域とともにある太田南小学校 ～

### (3) こんな教師に

- ・児童の手本となる教師
- ・児童一人一人の個性を磨く教師
- ・児童とともに熱く行動する教師
- ・使命感をもち、専門性を高める教師

## 4 経営の重点

- (1) 一人一人を生かす授業の工夫と確かな学びの保障 まなび
  - ・好奇心をくすぐり、学ぶ意欲を高める導入の工夫(実物・体験・ICT活用等)
  - ・納得や次への問いが生まれる学習過程の工夫(深い思考・判断のための表現の機会等)
  - ・学習の成果を確かめ、学びをつなぐ振り返りの工夫(振り返りの視点やICT活用等)
- (2) 思いやりの心を育む教育活動の充実 こころ
  - ・心の通う積極的な生徒指導の推進(生徒指導の3機能を生かした授業)
  - ・児童会活動の活性化と集会活動における異学年交流の推進(プラス1の改善)
  - ・他者理解に向けた議論する道徳授業の構築(道徳コーナーの活用)
- (3) 最後までやりきる体験活動の充実 からだ
  - ・地域への愛着心を育む体験の充実(地域連携によるふるさとキャリア教育)
  - ・学校の環境を生かした意図的な体力づくりの実践

## 5 具体的施策

- (1) キャリアステージに応じた指導力を高める研修の充実
  - ① 授業改善に向けた校内研修の充実
    - ・「秋田の探究型授業」の基本プロセスをベースとした組織的な研究・研修の推進と、一人1回の授業公開、及び昨年度プラス1の地域人材や素材を活用した授業実践
    - ・一人も取り残さない授業のための学び合いのあり方の研修と、子ども自身が目指す授業のイメージを共有化するための子ども授業参観の実施
    - ・学ぶ力の継続を意識した幼小連携・小中連携と、中学校区の研究会への積極的な参加
  - ② 秋田県教職キャリア指標を活用した自己目標の実現に向けた計画と実践、評価
    - ・近似学年・学団による教科の指導方法や教材、生徒指導・特別支援教育についてのアドバイスの日常化
  - ③ 校長等と教職員との「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」を行うなどの推進体制の構築、教職員一人一人の資質能力向上に向けた研修の充実
  - ④ 毎週水曜日の外国語教育専門監を活用した外国語活動・外国語科の研修や授業改善
  - ⑤ 毎週木曜日のGIGAスクールアシスタントの活用とICT担当をリーダーとした研修の推進
  - ⑥ 教職員研修や教育財産の継承に資する機を捉えた校長室便り
- (2) 家庭・地域等との連携と地域への貢献
  - ① 地域教育力の活用と、地域へ貢献する活動の推進(大仙市モデル地域としてのCS)
    - ・地域への感謝につながる花壇活動、伝統野菜の栽培及び広報活動、紙風船製作等のふるさと教育
  - ② 「大仙教育メソッド」による中学校区における取組の一層の推進
    - ・合同学習、合同除草、合同あいさつ運動等々、小小・小中の連携
    - ・園から小へのスムーズな接続をめざしたカリキュラムの共有化と「育てたい力」を意識した交流
    - ・隣接する太田分校との小高連携
- (3) 特別支援教育の充実と校内支援体制の強化
  - ① 通常学級における配慮が必要な児童への柔軟な対応
  - ② 個別の指導計画及び個別の支援計画を踏まえた全教職員による支援の実施
  - ③ コーディネーターを窓口にした関係諸機関との積極的な連携
  - ④ 業務改善による児童と向き合う時間の確保(日課の工夫、カエールボード、会議時間の短縮及びペーパーレス試行、日番廃止、学年報の発行回数削減、家庭学習コメント週1~2回、毎週水曜日のノー残業デー)(ノー残業デーは太田地域小・中学校共通実践)